

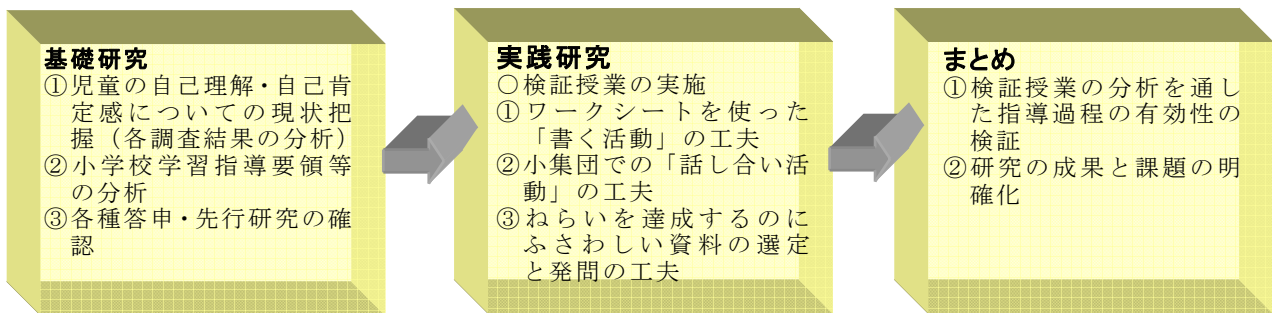
# 研究主題「自己肯定感を高め、よりよく生きようとする心をはぐくむ指導の工夫 —小学校高学年の道徳の時間における「書く活動」を通して—

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課  
台東区立蔵前小学校 教諭 牧真由美

## I 研究のねらい

小学校高学年までに授業やその他の教育活動を通して培われたことが、中学生としての自己の在り方や生き方に影響していると考えられるが、所属校の高学年児童の中には「自分にはいいところはない」「何やってもだめだ」等の発言があり、自分に自信がもてない様子が見られる。また「中学生の生活意識に関する調査」(平成14年11月(財)日本青少年研究所)では、日本の中学生はアメリカ・中国の中学生と比べて自己肯定感が低く、自己否定的な傾向が強いという結果が出ている。一方、小学校学習指導要領解説道徳編には道徳教育の意義として「人間が本来もっている、よりよく生きたいという願いやよりよい生き方を実践する人間の育成を目指す」ことが示されている。これらのことから、道徳の時間において児童の自己肯定感を高め、よりよく生きようとする心をはぐくむ指導が大切であると考え、本研究主題を設定した。

## II 研究の内容と方法

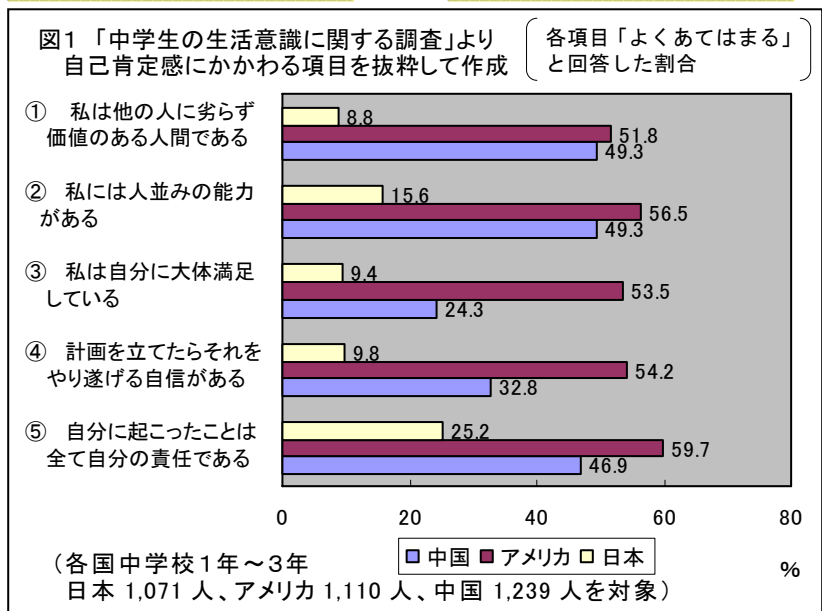


### 1 基礎研究

#### (1) 自己肯定感が低い児童の現状

図1は「中学生の生活意識に関する調査」(平成14年11月(財)日本青少年研究所)から作成したものである。「私は他の人に劣らず価値のある人間である」の項目で、「よくあてはまる」と答えた日本の中学生の割合は、アメリカや中国の中学生の約6分の1である。

さらに「自分に大体満足している」の項目でも、アメリカの約6分の1、中国の約5分の2にとどまっている。また同調査で「私はある程度自尊心をもっている」という項目に「あてはまる」と答えた割合はアメリカ22.4%、中国15.6%に対して日本は8.3%であった。調査からは日本の中学生の自信や自己肯定感が低いことがうかがえる。したがって小学校高学年の児童に自己肯定感を高める指導を行うことは大変重要であると考えられる。



## (2) 道徳の時間における児童の意識の変化

平成15年度文部科学省「道徳教育推進状況調査」によると、「道徳の時間を楽しんでいるあるいはためになると感じている児童はどの程度いると思いますか。」という問いに教師は、高学年児童ほど道徳の時間を「楽しいあるいはためになる」と感じていないと思っ

表1 道徳の時間を楽しんでいるあるいはためになると感じている児童はどの程度いると思いますか。  
 (「道徳教育推進状況調査」平成15年 文部科学省より作成) (単位%)

	ほぼ全員	3分の2	半分	3分の1	ほとんどいない
低学年	43.4	44.5	11.1	1.0	0.1
中学年	24.7	52.1	21.0	2.2	0.1
高学年	16.9	43.8	32.8	6.3	0.2

(全国すべての国公立私立の小学校 23092校対象)

## 2 実践研究

自己肯定感を高め、よりよく生きようとする心をはぐくむために、検証授業において以下の3つの視点から学習指導案を検討し、検証授業を実施した。

### (1) ワークシートによる「書く活動」を取り入れた指導の工夫

ワークシートによる「書く活動」を取り入れることによって、以下のような効果が期待できると考え、指導方法を検討した。

- 児童が、自分の心をじっくり見つめたり、考えを深めたりすることができる。
- 児童が、1単位時間の授業で自分がどのように考えるようになったかを振り返り、自己評価をしやすい。
- ワークシートを蓄積することで、児童が中長期的な期間で自分の心の変化や成長を感じることができる。
- 教師が、児童それぞれの考えを価値付けたり、児童の道徳的心情の変容をとらえ指導に生かしたりできる。

### (2) 小集団での「話し合い活動」の工夫

小集団での「話し合い活動」は、短時間で自分の思いや考えを表現したり友達の考えを聞いたりすることで多様な価値観に触れ、自分の考えとの相違に気付き、初めにもっていた自分の考えを見直し、広げ、深めることができる。また自分の考えを述べるのが苦手な児童にとっては、全体での話し合いより表現しやすい。さらに終末段階でワークシートの記述を基にした話し合いの場を設定し、互いのよさを認め合い自分のよさを実感させるための指導を工夫した。

### (3) ねらいを達成するのにふさわしい資料の選定と発問の工夫

自己肯定感を高め、よりよく生きようとする心をはぐくむためには、そのねらいに即した資料選定が重要である。また、高学年の児童は実話等の真実味のある資料を好む傾向がある。そのため高学年の児童にとって生き方のモデルとしやすい実在の人物が登場し、かつ人間の弱さや短所を含む資料を選定した。さらに、児童が人間のもつ弱さや短所に気付くように、補助発問で自分自身のことと重ね合わせて考えさせる工夫をした。そうすることで児童に、資料の主人公が弱さや短所を克服する姿にも気付かせることができると考えた。なお、児童が自分のよさに気付き、自己肯定感を高め、よりよく生きようとする心をはぐくむ指導と関連した内容項目としては、「個性伸長 1-(6)」「希望・勇気・努力 1-(2)」等が考えられる。

## Ⅲ 研究の結果と考察

### 1 検証授業の実施

前述の2つの内容項目に関する資料を取り上げ、検証授業を実施した。ここでは「希望・勇気・努力 1-(2)」による指導事例を報告する。

- (1) 主題名 夢に向かって〔内容項目 1-(2)〕  
 (2) 資料名 心にうったえる音楽を目指して—梯剛之〔文溪堂 5年〕  
 (3) ねらい 目標に向かって努力することの大切さに気付き、より高い目標を立て希望と勇気をもってくじけないで努力しようとする心情を養う。

(4) 指導過程

	○主な発問	・指導の工夫	・児童の反応
導 入	○このピアノの演奏を聞いて、どう思いましたか。 (モーツァルト「 rond」を1分半)	・資料への関心を高めるために、梯さんの演奏を聞かせプロフィールを紹介する。	・演奏に聞き入っている。 ・「上手」等のつぶやきはあったが、発言はなかった。
展 開	○資料を読んで、一番心に残ったことはどんなことですか。	・ワークシートに書かせ、発表させる。  <b>&lt;書く活動1&gt;</b> ・資料を読んだ直後の資料の印象が薄れないうちに、児童に自己の心と向き合わせ、資料から受け取った強い印象や直後の感動を引き出す。  ・児童が書いたり、発表したりしたことを受容的に受け止める。	・(夢の実現への強い意志) ・自分の夢をあきらめないで頑張ったこととがすごいと思いました。 ・(夢の実現への努力) ・すごく努力して勝ち取った2位だったことが心に残りました。 ・(夢の実現のための周囲の援助) ・1日7時間もお母さんと練習し、弾けるようになったのが一番心に残りました。
	◎ロン・ティルボ一音楽 ンコ楽し、難し、はどなでいた ンコ楽し、難し、はどなでいた ンコ楽し、難し、はどなでいた	・話し合いの意欲を高めるために、児童の感想を生かして問う。	・ピアノが好きでコンクールに出たのだあきらめない。 ・今までの努力が無駄にならないように頑張ろう。
開	<補助発問> ・自分と他人の気持ちになるよう。	・人の弱さに気付かせるよう補助発問をする。	・あきらめるしかないのかなあ。 ・誰か助けて欲しい。
	○梯さんは、コンクールで2位になり、世界の人々に認められた、どんな気持ちでしたか。  ○実現したい自分の夢や目標についてどう思いますか。	・希望をもって努力し、夢を叶えた梯さんに共感できるように板書を工夫する。  <b>&lt;書く活動2-①&gt;</b> ・自分の実現したい夢や目標の実現のために努力していることやこれから努力しようとしていることを書かせる。	・あきらめないで努力してよかった。 ・夢がかなってうれしい。  ・音楽の先生になりたいので、合唱などをもうと勉強しようと思う。 ・大会で優勝できるようにお母さんやお姉ちゃんと一緒に頑張る。
終 末	○班を作り、ワークシートを交換し合い、お互いの夢や目標の実現に向けて励ましのメッセージを書き合いました。	<b>&lt;書く活動2-②&gt;</b> ・友達に励ましのメッセージを書かせる。  <b>&lt;小集団での話し合い活動&gt;</b> ・互いの夢や目標について語り合わせる。	・夢がかなうといいね。 ・あきらめずに頑張ってください。  ・みんなに励まされ、「これからも頑張ろう」という自信ができました。

☆児童が多様な価値観に出合えるよう、児童の考えを机間指導をしながら類型化し、意図的に指名に生かす。

☆様々な考えに触れ、児童が自分の考えと比べ、考えを深められるよう、意図的に指名し発表させる。

**★<書く活動1>**  
ねらいとする道徳的価値にかかわる3つの内容  
・意思  
・努力  
・本人を支える母親の援助やその存在の大切さなどに児童は気付くことができた。これは「書く活動」によって、児童が資料と向き合いじっくり考えたことによると思われる。

**☆中心発問**  
<書く活動1>の段階でねらいとする道徳的価値にかかわる児童の反応がすでに見られた。そのためここでは、ねらいとする価値を広げさせたり深めさせたりするために、全体での話し合いを中心に据え、あえて書く活動は行わない。

☆自己の立場に置き換えて考えることで、自分自身の問題としてとらえることができるようにする。

**★<書く活動2-①>**  
児童にじっくり自分を振り返らせることで、児童の夢や目標についての思いを引き出すことができた。

**★<書く活動2-②>**  
<書く活動2-①>で各自が書いたワークシートの交換をさせ、互いに励ましのメッセージを書き合わせることで、児童に自信や意欲をはぐくむことができた。

**★<小集団での話し合い活動>**  
活発な話し合い活動により温かく楽しい雰囲気が作られ、道徳の時間に対する意欲を高めることができた。

※本指導事例で使用したワークシートについては、補助資料2を参照。  
※「書く活動1、2-①、2-②」は同一ワークシートを使用。

- (5) 評価 ・目標に向かって努力することの大切さに気付けたか。  
・よりよく生きようとする意欲をもつことができたか。

## 2 考察

### (1) 2つの検証授業後にみられる児童の自己肯定感（検証授業後、授業実施クラスの児童 26名対象）

項目	回答類型（単位 人）		とても思う	思う	あまり思わない	思わない
友達に自分のよいところをみつけてもらって、自分に自信がついたように思う	4(15%)	14(54%)	5(19%)	3(12%)		
友達から励ましのメッセージをもらって頑張ってみようと思った	6(23%)	13(50%)	4(15%)	3(12%)		

上記のアンケートを行った結果、「友達によいところをみつけてもらって自分に自信がついたように思う」児童が69%、「友達から励ましのメッセージをもらって頑張ってみようと思った」児童は73%であり、児童の自己肯定感が高まりつつあると考えられる。

### (2) ワークシートを使った「書く活動」の有効性

「書く活動1」では、資料提示の直後に、児童に心に残ったことを書かせた。これにより、資料の印象が薄れないうちに自己の内面と向き合わせ、資料から感じ取った率直な感想や強く感動したことを引き出すことができた。このことから児童は、ねらいとする道徳的価値にかかわる内容に気付くことができたと考えられる。また、中心発問においては、児童からより深まった考えが導き出され、その後の話し合いが活性化された。

「書く活動2」はワークシートを2段階にし、展開後段はじっくり自分を見つめ振り返るために書かせ、終末はその記述を基に小集団での話し合い活動をし、「友達のよさ」や「友達への励ましのメッセージ」を書かせた。児童がまずじっくり自分の「よさ」を見つめ振り返ったことで、その後の話し合い活動で自分以外の友達の「よさ」にも積極的に気付くことができた。

### (3) 小集団での「話し合い活動」による児童の意欲の喚起

内容項目1-(2)の授業では友達への励ましのメッセージを、内容項目1-(6)の授業では友達のよさを、それぞれワークシートに書き、それらを交換し、互いの夢や目標について語り合ったりよさを認め合ったりする「話し合い活動」を行った。こうした「話し合い活動」により、他者から自分のよさに気付かされたり、また、活発な「話し合い活動」により、温かく楽しい雰囲気を作り出されたりしたことで、児童の道徳の時間に対する意欲が高まったと考えられる。

### (4) 自己肯定感を高めるための資料選定と児童が自己の課題としてとらえるための発問

授業後の感想に「私も梯さんのように夢に向かって頑張りたい」「私も自信をもって何かやってみようと思った」などの記述が見られた。児童は、周囲の人に支えられ励まされながら努力し、夢を実現したり自分のよさをのびしたりした資料の登場人物に共感し、自分の生き方のモデルとしてとらえていると考えられる。このことから実際に人から認められ自分のよさに気付く、弱さや脆さを克服した実在の人物を取り上げた資料の選定は、高学年の児童にとって自己肯定感を高め、よりよく生きようとする心をはぐくむために有効であったと考えられる。

また、登場人物の弱さに着目させる補助発問によって、児童に資料中の実在の人物にも弱さや脆さがあることや、それを克服した過程に気付かせ、「自分に弱いところがあっても頑張りたい」というよりよく生きようとする心をはぐくむことができた。

## IV 今後の課題

- 1 児童が意欲的に取り組むためにワークシートの形式がパターン化しないよう更に工夫する。
- 2 特別活動との違いを踏まえ、道徳の時間の特質を押さえた小集団の「話し合い活動」を取り入れる指導過程を工夫する。
- 3 ワークシートの継続性を考慮するなど、計画的に「書く活動」を取り入れるようにする。

補助資料1 道徳の時間における「書く活動」の意義

(1) 道徳の時間に「書く活動」を取り入れるよさ

児童にとってのよさ

- ・自分の心をじっくり見つめたり、考えを深めたりすることができる。
- ・1単位時間の授業で、自分がどのように考えるようになったかを振り返って、自己評価しやすい。
- ・自己の心の変化や成長を実感できる。

教師にとってのよさ

- ・児童一人一人の考え方や見方を把握できる。
- ・児童それぞれの考えを価値付けたり、児童の道徳的心情の変容をとらえたりして指導に生かすことができる。
- ・書いたものから児童の育つ姿を理解することができる。

(2) 指導過程におけるねらいを達成するための「書く活動」の位置付け

※ゴシック部分は本研究で取り上げた活動

	書かせる趣旨	書く内容	児童の思考
資料提示直後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする価値や資料への方向付けを図る。</li> <li>・学習意欲を喚起する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想。</li> </ul> <p>（資料から感じ取った率直な感想や強い感動 &lt;書く活動1&gt;）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料に対する自分の思いに気付く。</li> <li>・資料の登場人物の生き方に共感したり感動したりする。</li> <li>・資料の印象が薄れないうちに自己の心と向き合う。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の登場人物の立場に立って考えさせ、ねらいとする価値の把握をさせる。</li> <li>・自他の考えを相互比較させる。</li> <li>・自己の考えを明確化させ、ねらいとする価値への考え方を深めさせる。</li> <li>・自己を振り返り、価値の自覚を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中心発問に対する最初の自分の考え。</li> <li>・全体やグループでの話し合い後の、深まった見方や考え。</li> <li>・今までの自分を振り返って考えたこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の考えを整理する。</li> <li>・他の考えを知る。</li> <li>・今までの自分を振り返る。</li> <li>・自己の考えや思いを見直したり、自己評価したりする。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者から見た自分に気付かせる。</li> <li>・実践意欲を高めさせる。</li> <li>・本時の学習に対する自己確認をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者への思い。</li> </ul> <p>&lt;書く活動2&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の生き方についての自分の考え。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者のよさに気付く。</li> <li>・自分のよさに気付く。</li> <li>・よりよく生きようとする意欲の高まり。</li> </ul>

(3) ワークシートの継続性

- 同価値や関連する価値の学習を行ったときに、児童が自己のワークシートの記述を見返したり学習に活用したりすることで、児童が自分の成長を実感することができる。
- 教師が一人一人の児童の道徳的心情の変容をとらえ、指導に生かすことができる。
- ワークシートの児童の記述を活用することで、家庭との情報交換や共通理解を図った指導にあたるることができる。

(4) ワークシートを道徳の時間の事前や事後においても活用する有効性

- ワークシートを道徳の時間の事前や事後においても活用することは、児童の道徳の時間やねらいとする価値への興味関心を高めたり、道徳的価値の自覚を深めたりすることに効果的である。

	活用の有効性	書く内容	児童の思考
事前指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする価値にかかわる児童の実態を把握する。</li> <li>・資料理解のために事前に資料の内容について調べ学習をさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の実態。</li> <li>・価値にかかわる内容についての自分の考え。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする道徳的価値に興味関心をもつ。</li> </ul>
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価をさせる。</li> <li>・個人差に応じた事後指導をする。</li> <li>・児童が書いたものを家庭との情報交換に利用し、実践意欲を高める。</li> <li>・ねらいとする価値と関連する教科領域の学習やその他の教育活動と、道徳の時間との連携を図り、道徳的実践意欲を高める。</li> </ul>	<p>（※「道徳の時間に書いたワークシートの活用」のため、事後に書くことは設定していない。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の学習を振り返る。</li> <li>・自分の個性に気付く。</li> <li>・道徳的実践意欲が高まる。</li> <li>・よりよく生きるために役立てる。</li> </ul>



補助資料3 [内容項目 1-(6)] にかかわる指導事例

- (1) 主 題 名 長所を伸ばす 内容項目 1-(6)
- (2) 資 料 名 マンガ家になろう - 手塚治虫 (文溪堂 5年)
- (3) 資料の概要

小学生の頃、いじめられっ子だった「わたし」は、みんなにできないことを体得しようという気持ちでマンガをかき始めた。そして「わたし」の才能を認め、励ましてくれた先生方に支えられ、戦時中もマンガをひたすら勉強し続けた。そして、マンガ家になった「わたし」は、「ストーリーマンガ」と呼ばれる深い内容の、世界に類を見ないマンガを制作したという内容である。  
 周囲の人に支えられ、励まされながら、努力して自分の長所を伸ばし、日本を代表するマンガ家となった手塚治虫氏の姿を通して、児童の自分らしいよさを積極的に伸ばそうとする意欲を高めることができる資料である。

- (4) ね ら い 自分の特徴を知り、強い心や努力によって個性を磨き、自分のよさを積極的に伸ばしていこうとする意欲を高める。

(5) 指導過程

	○主な発問	指導の工夫
導 入	○このマンガを見たことはありますか。	・副読本のイラストを拡大して提示し、手塚治虫氏への関心を高める
展 開	○「わたし」について一番心に残ったことはどんなことですか。	・ワークシートに書き、発表させる。 <書く活動1> ・資料を読んだ直後、資料の印象が薄れないうちに自己の心と向き合い、資料から受け取った強い印象や直後の感動を引き出す。 ・児童が書いたり発表したりしたことを受容的に受け止める。
	◎戦争が激しくなる中で、「わたし」はどんな気持ちでマンガを書き続けていたのでしょうか。 <補助発問> ・自分が「わたし」と同じ立場だったらどんな気持ちになるでしょうか。 ○マンガ家になって「ストーリーマンガ」を作り上げた「わたし」はどんな気持ちだったでしょう。 ○自分にはどんなよさがあると思いますか。	・話し合いの意欲を高めるために、児童の感想を生かして発問する。 ・人の弱さに気付かせ、「わたし」に共感できるように補助発問をする。 ・高い理想をもち、作品作りに努めた「わたし」に共感できるよう板書を工夫する。
終 末	○お互いのよさを見つけ合い、伝え合いましょう。	<書く活動2-①> ・自己をじっくり見つめ、自分のよさを考え書かせる。 <書く活動2-②> ・友達のよさを見つけ書く。 <小集団での話し合い活動> ・互いのよさについて話し合わせる。

○ワークシート例

マンガ家になろう-手塚治虫 月 日 ( )  
 5年 組名前 \_\_\_\_\_

「わたし」について一番心に残ったことはどんなことですか

先生やお母さんの言葉が心に残りました。私にも同じようなことがあったら、家族や友達に相談し、工夫して乗り越えたいです。

自分のよさを  
見つけてみよう

字を丁寧に書くと  
.....  
.....

○○さんのいいところを  
見つけたよ!

年下の子に親切

やさしい

がんばりや

字がきれい

・シールを貼る

○児童が友達の様々な「よさ」に気が付き、思考を広げやすいように、以下のような「よさ」を類型化したシールシートを各児童に配布し、終末で使用した。児童がこのシートによって友達の「よさ」に気が付き、活発に話し合い活動ができるというよさがあるが、一方において「よさ」に関する類型がすでにシールとして用意されているので、子どもの思考が深まりにくいという課題がある。

年下の子に親切	公平
すすんで働く	がんばりや
明るくて元気がいい	生き物を大切に
責任感がある	(自由記述)

○「よさ」の項目は、道徳的価値にかかわる内容とした。  
 ○児童が、友達のよさとは何か自分で思考することが大切であるので、自由記述欄を作成した。

#### 補助資料4 児童の感想にみられる自己肯定感

検証授業後、児童に学習を振り返って感想を書かせた。これによると今まで気付かなかった自分のよさや課題に気付き、目標に向かって努力しようとする意欲が高まったことがうかがえる。

このことから「書く活動」によって児童が自己をじっくり見つめたり、小集団での「話し合い活動」によって互いのよさを活発に話し合ったりすることにより、児童の自己肯定感を高めることができると考えられる。

##### 希望・努力1-(2)をねらいとした授業より

○自分の課題や努力することの大切さが自覚できた児童

- ・わたしも、あきらめないで努力をして、夢をかなえたいと思いました。
- ・みんながアドバイスをしてくれたり励ましたりしてくれて、とてもうれしかったです。今わたしが何をすればいいのか分かりました。
- ・自分の目標（書道が上手になる）を達成できるように頑張りたい。

○夢や目標をもつことの大げさに気付くことができた児童

- ・目標や夢をもっていると頑張れるし、達成できる気がするから、目標や夢をもった方がいいと思いました。

○友達から励まされたり、認められたいして、意欲がはぐくまれた児童

- ・お互いに励ましの言葉を書き合っていると、励まされた気がしてよかったです。
- ・みんなに励まされて「これからもがんばろう」という自信が付きました。もっと勉強して音楽の先生になりたいです。

##### 個性伸長1-(6)をねらいとした授業より

- ・自分では、自分にいいところはないと思っていたけれど、周りの人には、いいところを見付けてもらえてよかった。
- ・友達からいいところだと言われたことが、自分ではそう思っていなかったのでもううれしかった。友達が自分をどう思っているのか分かってよかった。

○友達からよさを認められ、自分のよさに気付けた児童

- ・みんなで、友達のよいところを見付け、みんなに色々なよいところがあったことに気付いてよかった。
- ・今まで友達のいいところなど真面目に考えたことがなかったけど、今日考えていいところが分かってよかったです。

○お互いのよさに気付けた児童

- ・自信をもって何かやってみようと思いました。
- ・これからどんどんいいところを伸ばしたいと思いました。

○友達から認められ、よりよく生きようとする意欲がはぐくまれた児童

##### その他の感想より

- ・梯さんの話を聞いて、がんばって練習し、努力し、あきらめなければ大丈夫ということを知りました。
- ・梯さんががんばったように、自分もがんばりたい。
- ・今日の道徳は楽しかったです。

以上のような児童の感想がみられた一方で、ワークシートに書けなかったり、途中で書くのをやめてしまったりした児童もいた。こうした児童にも自己肯定感を高め、よりよく生きようとする心をはぐくむために、さらにワークシートによる「書く活動」、小集団での「話し合い活動」、発問等の工夫を行いたい。